

サイクル 転換 トレード 【総合編】

サイクル理論に沿った

相場転換を狙ったトレード手法

始めに

この度は、書名『サイクル転換トレード【総合編】』をダウンロード頂きありがとうございます。

本書は、サイクル理論を土台とした相場転換トレードを著者の視点から展開した内容となっています。

サイクル理論でトレードする際は、ボトム・トップからの『相場の転換を狙う』いわゆる逆張り戦略です。サイクル理論自体は、手法というよりは環境認識向きです。それに加え『チャートパターン』『ライン』『インジケーター』という手法を組み合わせることでトレードしていく形が定石と考えています。

本書で紹介しているのは、皆さんがご存じの手法ばかりかと思いますが、転換トレードの観点から、非常に有効な手法と感じていますので、トレードにお役立ち頂ければ幸いです。

なお本書で紹介している手法の基礎的な知識は割愛していますので、必要に応じて別の教材等をご利用下さい。



目次	ページ
はじめに	2
チャートパターン編①	4
チャートパターン編②	5
チャートパターン編③	6
ライン編①	7
ライン編②	8
ライン編③	9
トレンド系インジケータ編①	10
トレンド系インジケータ編②	11
オシレーター系インジケータ編①	12
オシレーター系インジケータ編②	13
複合編①	14
複合編②	15
複合編③	16
最後に	17

チャートパターン編①

ダブルボトム・トップ

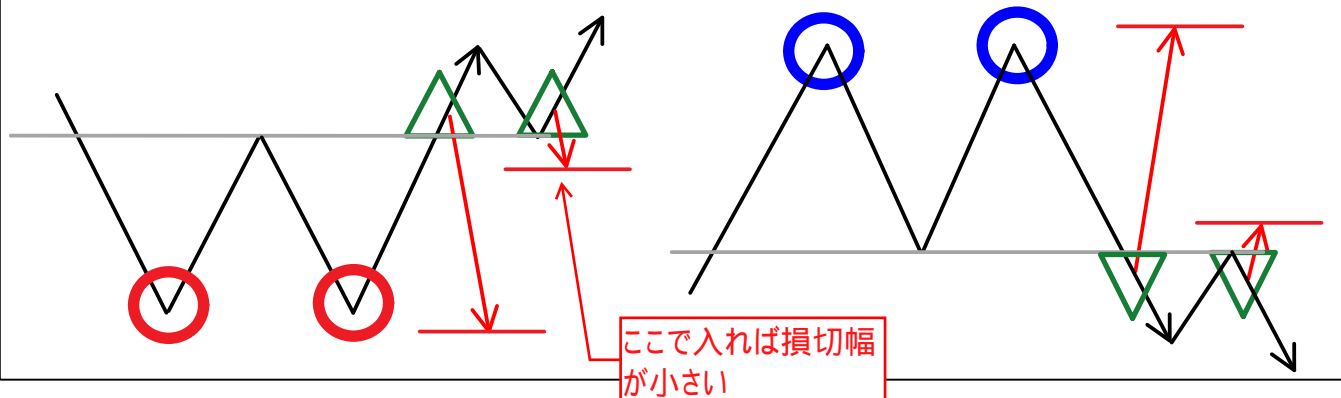
王道パターンです。転換時の出現率は高く
底(ボトム○)または天井(トップ○)で、
同水準の値を2回つけてから、
上昇または下落していきます。

△▽はエントリーポイント
—ラインは損切りポイント



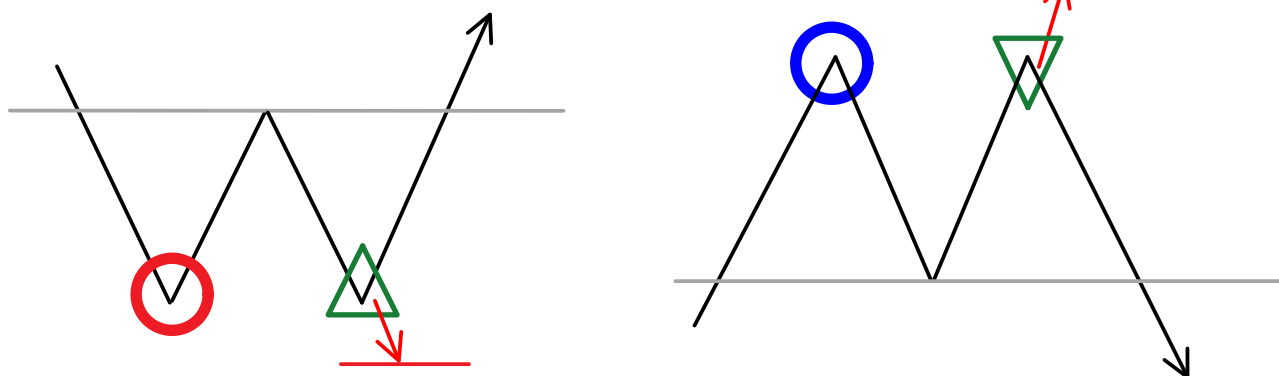
エントリーポイント

ダブルボトム・トップの完成を待ってからエントリーします。
多くのトレーダーが見るポイントなので、大きく動き出す反面、ダマしも多くなります。



見越しエントリー

ダブルボトム・トップの完成を見越してエントリーします。
先に作られた山を越えて反転することあれば、超えずに反転することもあります。



ポイント：先の山付近にあるから即エントリーではなく、付近にレジスタンスラインなどがあると信頼度が高まります。それに反応する動きを確かめてからエントリーしましょう。

チャートパターン編②

逆三尊・ヘッドアンドショルダー

ダブルボトム・トップと並び王道です。

逆三尊 ⇔ 三尊

ヘッドアンドショルダー ⇔

リバース・ヘッドアンドショルダー

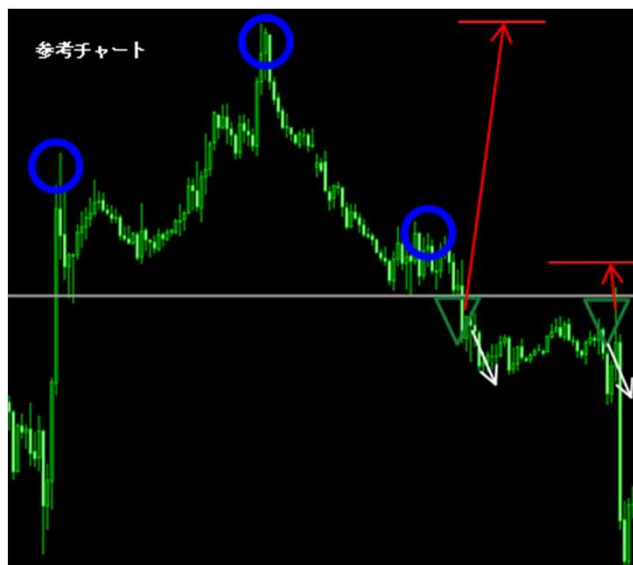
トリプルボトム ⇔ トリプルトップ

と呼ばれ方は様々です。

底(ボトム○)または天井(トップ○)で、同水準の値を3回以上つけますが、真ん中が突起しているのが特徴です。

△▽はエントリーポイント

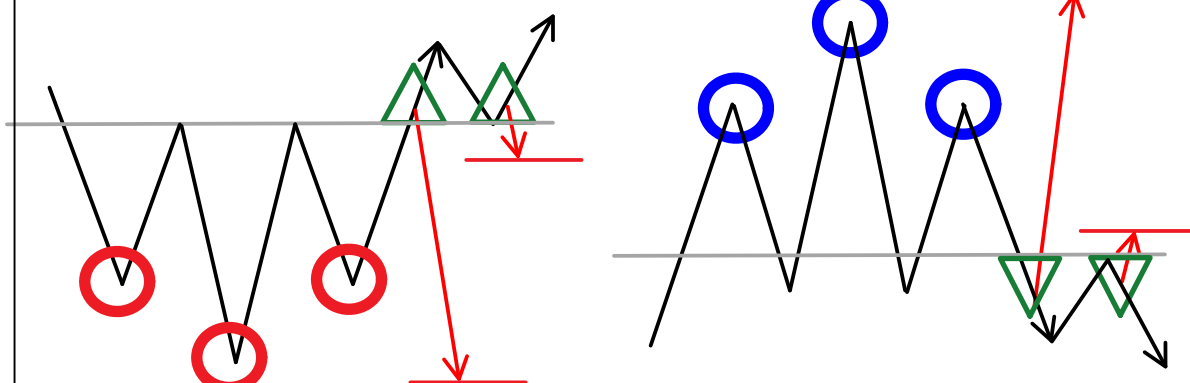
—ラインは損切りポイント



エントリーポイント

逆三尊・ヘッドアンドショルダーの完成を待ってからエントリーします。

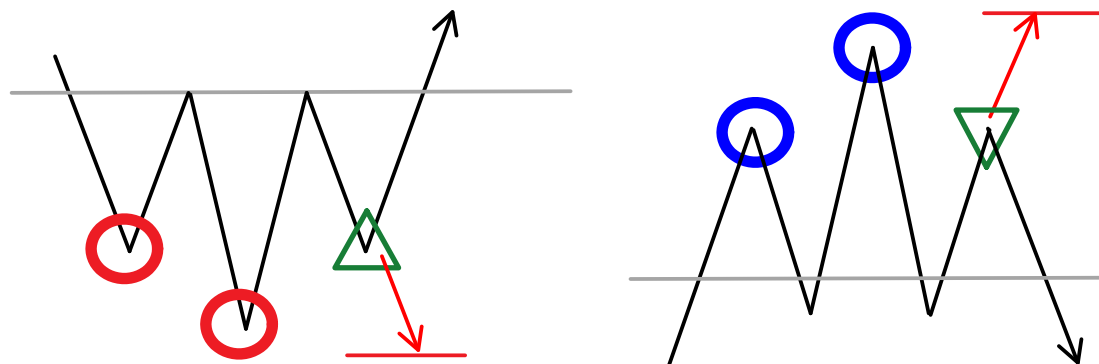
多くのトレーダーが見るポイントなので、大きく動き出す反面、ダマしも多くなります。



見越しエントリー

逆三尊・ヘッドアンドショルダーの完成を見越してエントリーします。

ショルダー(肩)付近で折り返すことから、最初のショルダー(肩)がエントリーの目安です。



ポイント：先の山付近にあるから即エントリーではなく、付近にレジスタンスラインなどがあると信頼度が高まります。それに反応する動きを確かめてからエントリーしましょう。

チャートパターン編③

ソーサーボトム・トップ

ソーサーは「お皿」という意味で、その名の通り、湾曲を描くようなチャート形となります。

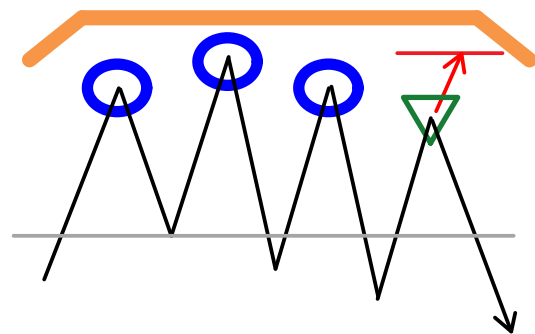
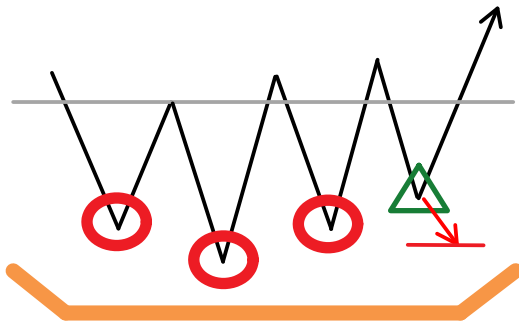
底(ボトム○)または天井(トップ○)付近で、段々と切り上がって(切り下がって)上昇(下落)していきます。

△▽はエントリーポイント
—ラインは損切りポイント



エントリーポイント

徐々に切り上げ、切り下げてくるタイミングを見計らって、エントリーします。
切り下がっている、または切り上がっているという転換サインに、いち早く気づけるかが鍵です。



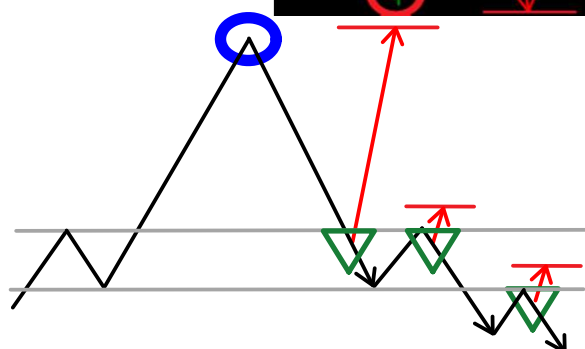
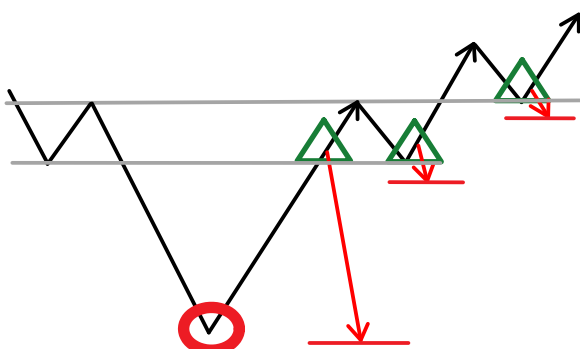
スパイクボトム・トップ

底(ボトム○)または天井(トップ○)で、安値、高値を1回つけてから、上昇または下落していきます。



エントリーポイント

初動をエントリーするのは困難です。左対称のレジサポラインを目安にエントリーしましょう。

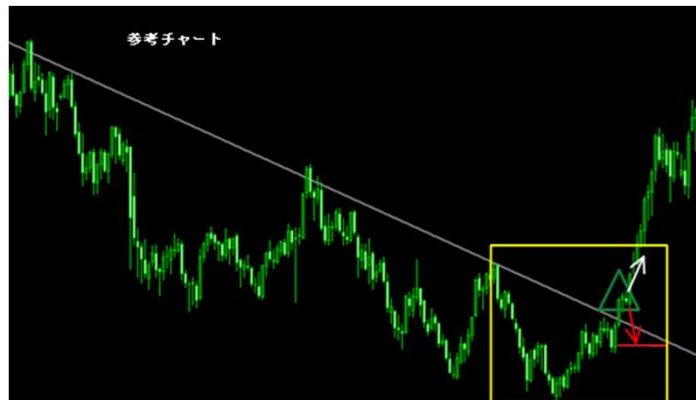


ライン編①

トレンドライン

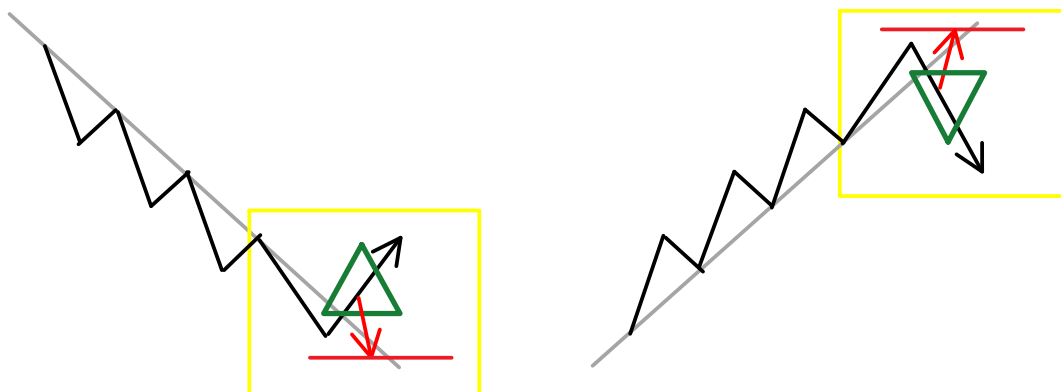
転換時には必ず現れます。
今までの継続した流れをさえぎります。

△▽は一般的なエントリーポイント
—ラインは損切りポイント
□はボトム・トップエリア

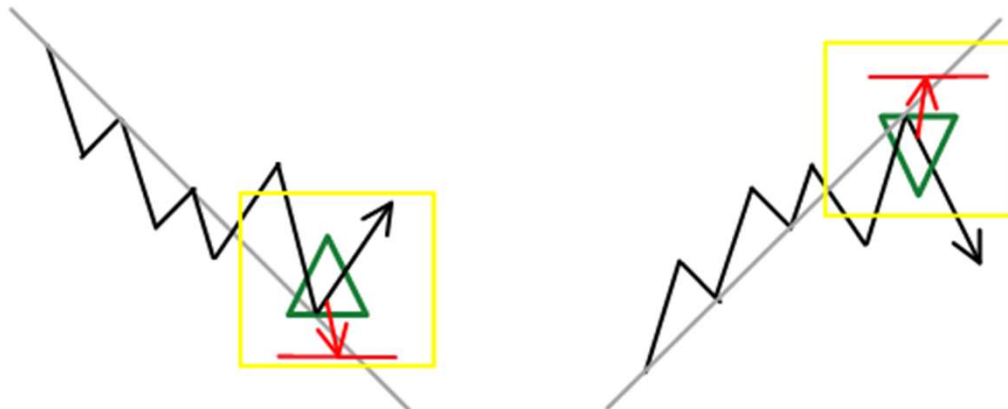


エントリーポイント

ローソク足の終値が、ラインを越したらエントリーです。
参考チャートのように一気に伸びる場合もあります。



上図のようにトレンドラインを越しても、伸びずに戻る場合があります。
その場合トレンドラインがサポートラインとなり、反発することもあります。



ライン編②

レンジライン

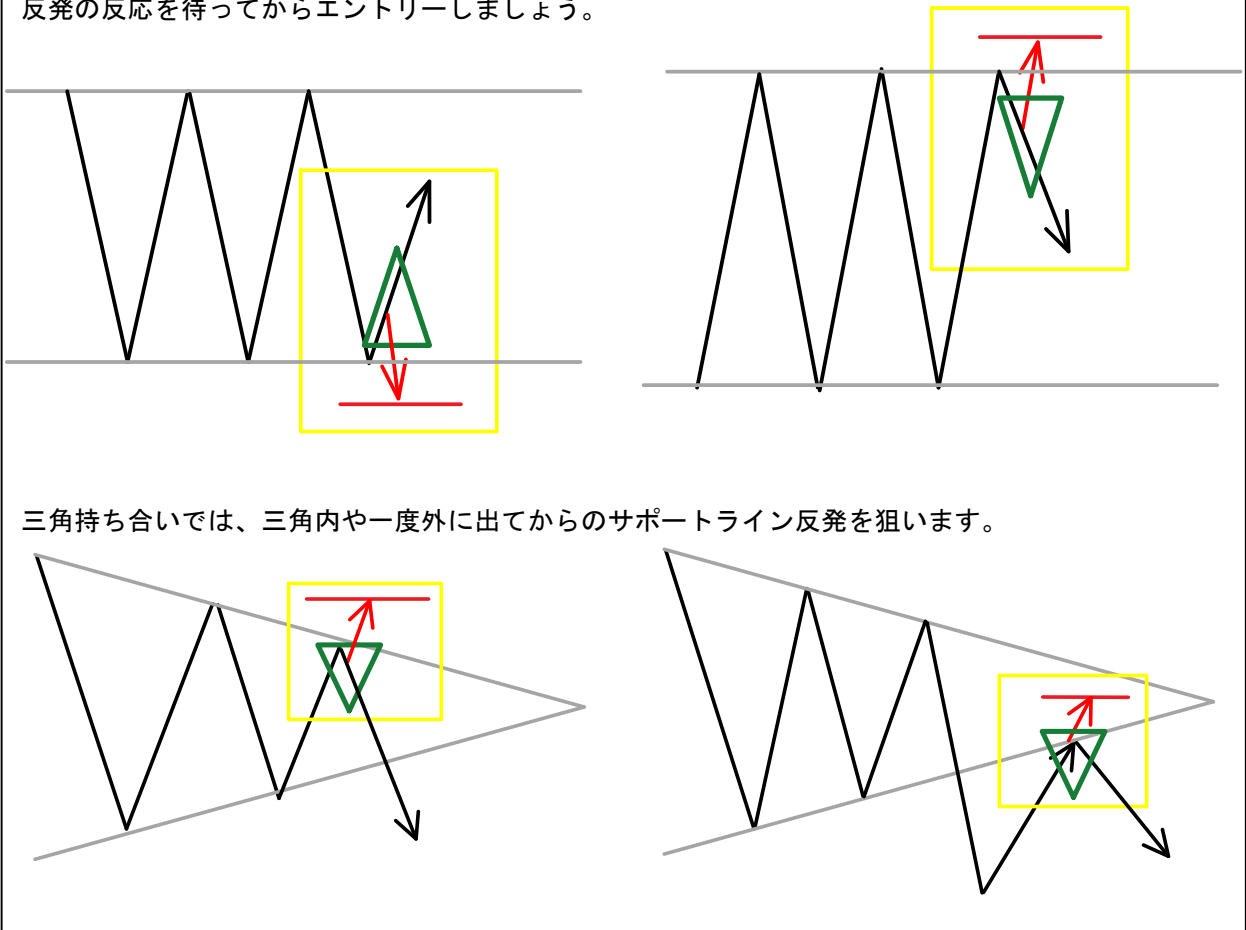
いわゆるレンジ相場です。トップ、ボトムを背にすると攻めやすいパターンです。

- △▽は一般的なエントリーポイント
- ラインは損切りポイント
- はボトム・トップエリア



エントリーポイント

ボトムやトップのタイミングにレンジラインが重なる時が転換チャンスです。反発の反応を待ってからエントリーしましょう。



ライン編③

平行チャネルライン

ピッタリと当てはまると大きく利益をとることも可能です。別の教材『サイクルナッチ波動』のエリオット波動に発展するケースもあります。

△▽は一般的なエントリーポイント

—ラインは損切りポイント

□はボトム・トップエリア

○はレジサポライン

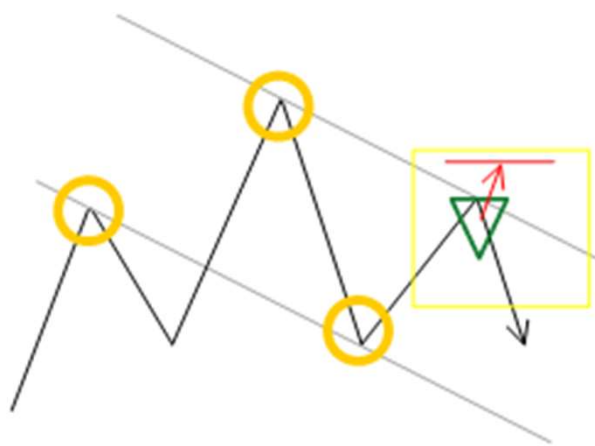
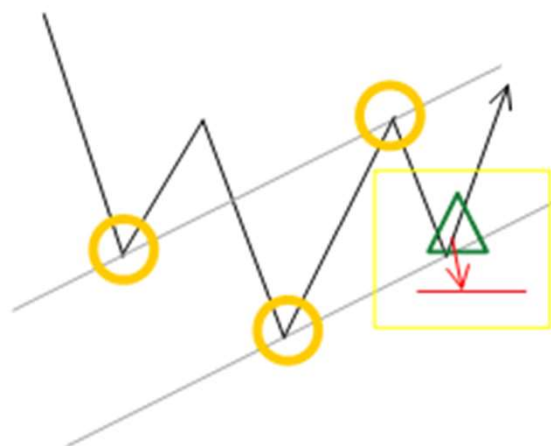


エントリーポイント

平行チャネルライン付近からの反発を狙います。

反発の反応を確認してからエントリーしましょう。

※ラインを引く時は、以前の転換点○が重なるようにすると、エントリーポイントが見えてきます。



トレンド系インジケーター編①

移動平均線

移動平均線は過去の一定期間の終値の平均値を線で結んだものです。
(下図では青線は50MA、赤線は20MAに設定)

△▽は一般的なエントリーポイント
—ラインは損切りポイント
□はボトム・トップエリア

初動型

エントリーポイント

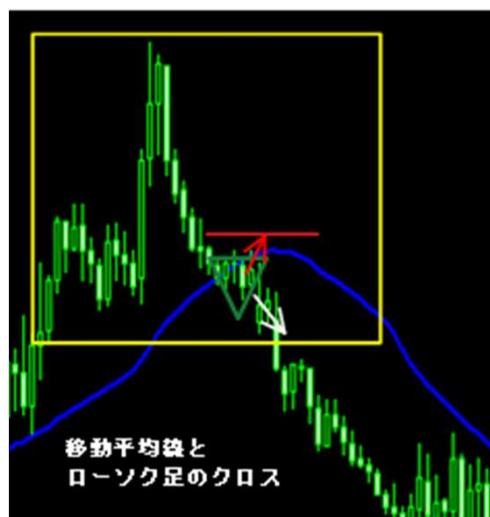
移動平均線を用いたボトム・トップからの反発を狙います。



遅延型

エントリーポイント

移動平均線やローソク足のクロス後にエントリーです。初動型と比べエントリーが遅くなります。



トレンド系インジケーター編②

ボリンジャーバンド

ボリンジャーバンドは、3本の線で構成され、中央の線は移動平均線、両サイドの線は標準偏差の線になります。

△▽は一般的なエントリーポイント

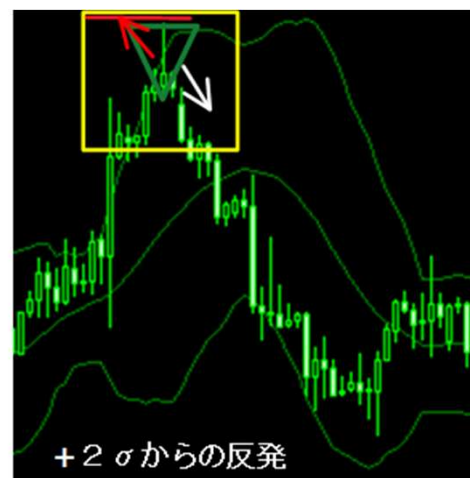
—ラインは損切りポイント

□はボトム・トップエリア

逆張り型

エントリーポイント

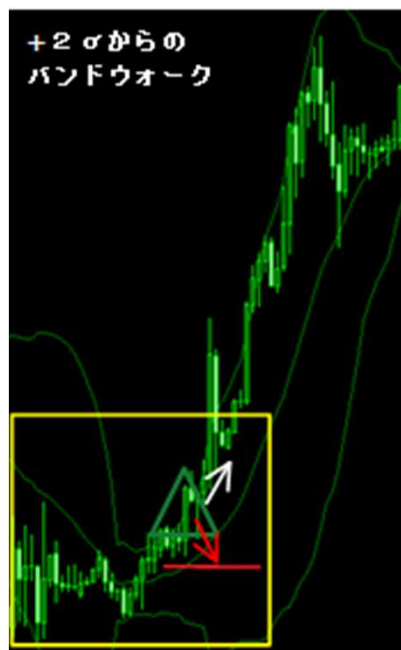
ボトムやトップとなるローソク足が、標準偏差（ $\pm 2\sigma$ ）の線にタッチ後の反発を狙います。



順張り型

エントリーポイント

トップ・ボトム後の標準偏差（ $\pm 2\sigma$ ）からのバンドウォークでエントリーします。エントリー遅延型ですが上手く乗れば大きく利益を伸ばせます。



オシレーター系インジケーター編①

MACD

MACD、ストキャスティクスともオシレーターの代表格です。

サイクルのボトムやトップ時は『売られすぎ、買われすぎ』の状態であることが多く、オシレーターのサインは、トレンド転換したことを意味することも多いです。

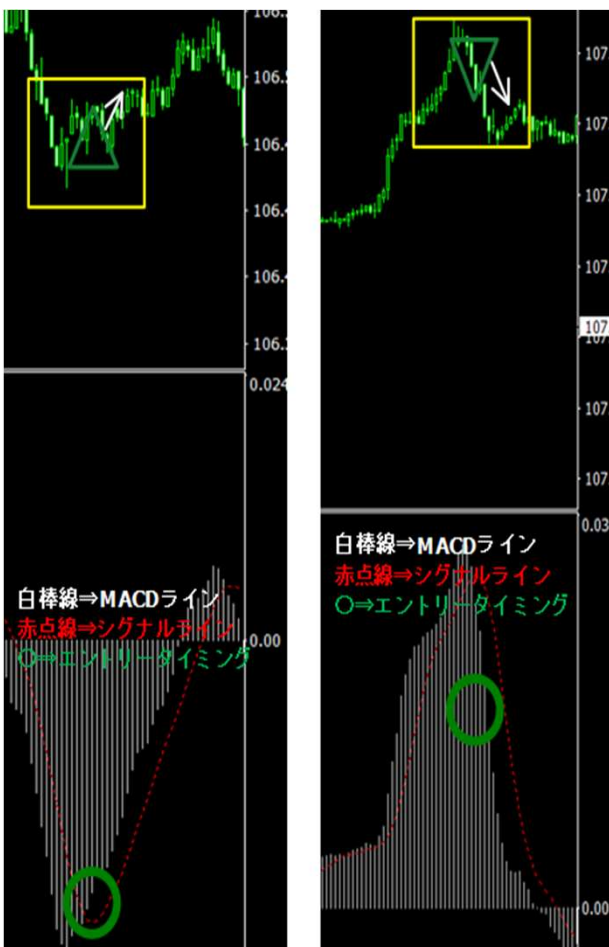
エントリーポイント

『MACDライン』と言われる指数平滑移動平均線と『シグナルライン』と言われるMACD値の単純平均線の組み合わせで構成されています。MACDラインがシグナルラインを割った時（○ポイント）にエントリーです。

△▽はエントリーポイント

□はボトム・トップエリア

損切りポイントはシグナルラインがMACDラインを割った時



ストキャスティクス

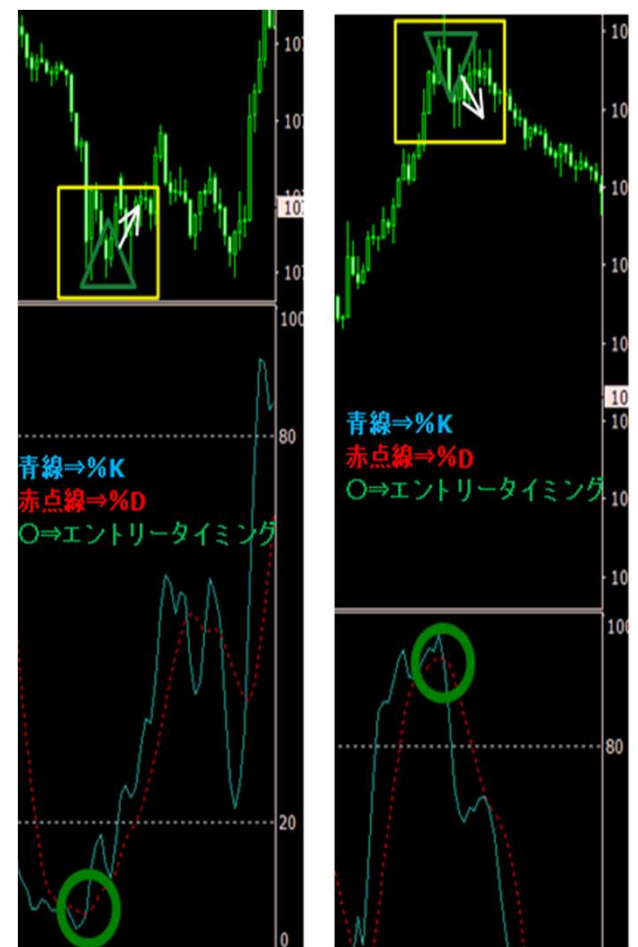
エントリーポイント

一定期間における最高値から最安値までの範囲の中で、直近の終値がどの位置にあるかを見る『%K』と%Kを移動平均化し動きを平滑化した『%D』を使用します。『%K』と『%D』が売られすぎの20%以下、または買われすぎの80%以上のエリアに存在し『%K』が『%D』を割った時（○ポイント）にエントリーです。

△▽はエントリーポイント

□はボトム・トップエリア

損切りポイントは%Dが%Kを割った時



オシレーター系インジケーター編②

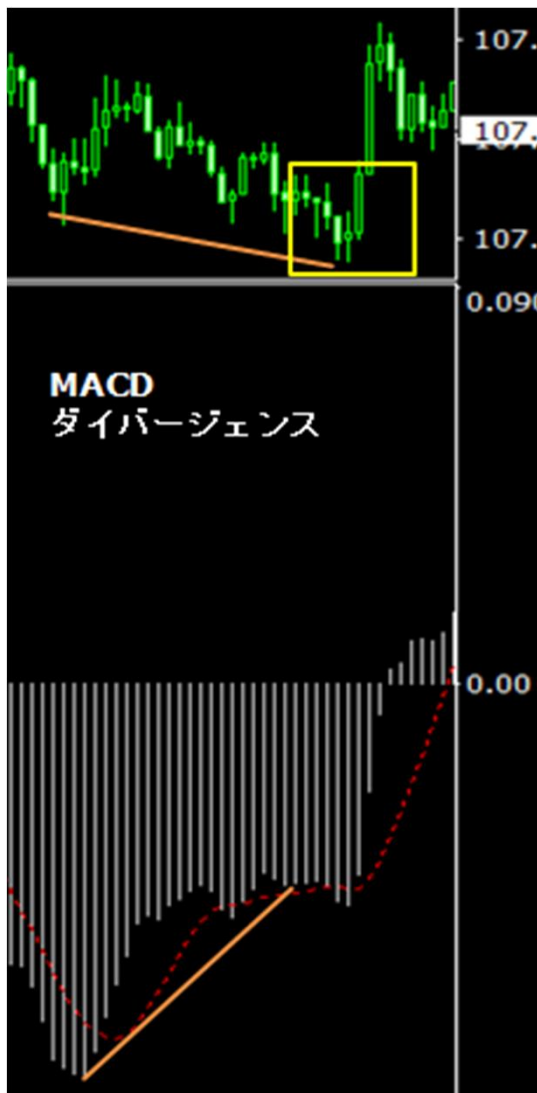
ダイバージェンス

ダイバージェンスは『逆行現象』と呼ばれ、オシレーターは、上昇サイン(下降サイン)が出ているのにも関わらず、チャートは相反して、下降(上昇)していきます。

エントリーポイント

オシレーターのサインに反したチャート形成がされていることが条件となります。但しオシレーターだけでエントリーポイントは掴むことができないので、他のサインも併せて使用します。

□はボトム・トップエリア

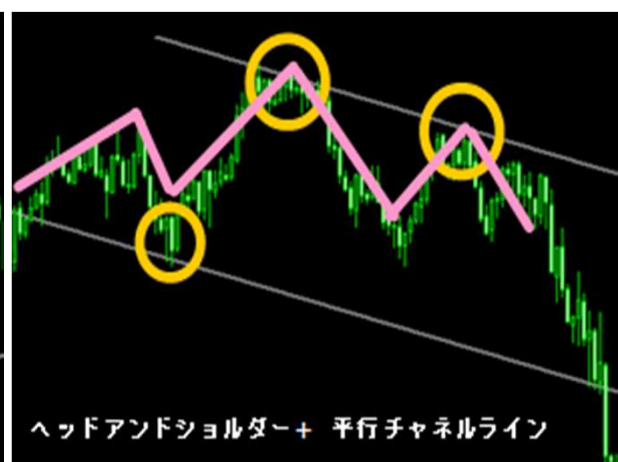
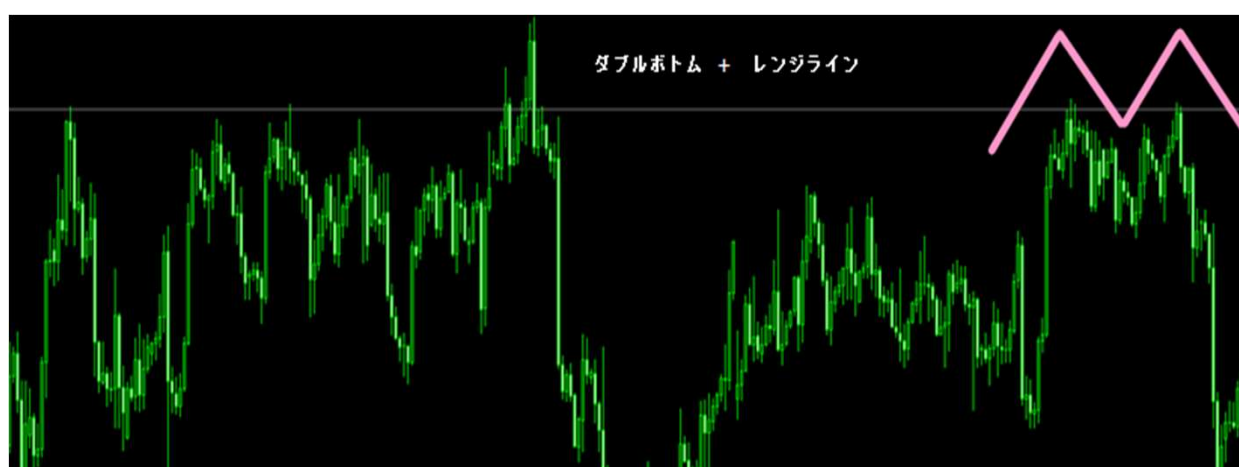


複合編①

最後に複合編として本教材で紹介してきた、チャートパターン、ライン、インジケーターを組み合わせたものを紹介していきます。

チャートパターン + ライン

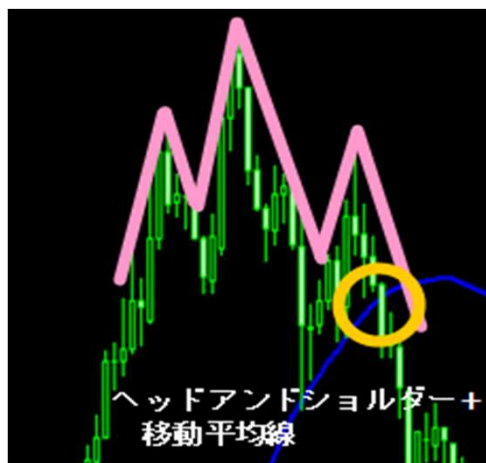
チャートパターンの中で、ダブルボトム・トップと逆三尊・ヘッドアンドショルダーは、他の手法との組み合わせ相性がいいです。



複合編②

チャートパターン + インジケーター

チャートパターンの中で、ダブルボトム・トップと逆三尊・ヘッドアンドショルダーは、他の手法との組み合わせ相性がいいです。



複合編③

ライン + インジケーター

「ラインを超えたらエントリーする」など明確な基準を設けるとエントリーに迷わなく良いというメリットがあります。



最後に

『サイクル転換トレード【総合編】』いかがだったでしょうか。

本書で、紹介している手法は、著者が愛用しているものばかりです。
そのままお使い頂いて構いませんし、著者の手法は参考程度に留めて、皆さんが普段使い慣れている手法を継続してお使い頂くことも良いと思います。

なりより「サイクルを背景にする」を忘れずにトレードして下さい。

サイクルという優位性があるからこそ手法が生きてきますので、日々磨いていきましょう。

最後までお読みいただきありがとうございます。

皆さまのトレードが上手くいくことを願っています。

2020年7月 baku

